

# 事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報		事業番号	0145/150715/02/06	事業の種類	4
年度	19	事務事業名	敬老金支給事業	作成日	平成21年1月20日
予算事業名	敬老事業		作成日	平成21年1月20日	重要度
政策名	すこやかに暮らせる、心かようまちづくり		担当部課名	健康福祉課	
施策名	高齢者福祉	実施計画への記載	無	主要事業の指定	無
根拠法規及び関連法規		相生市敬老祝金支給要綱			
事業の目的	誰のために(具体的に)	9月15日現在で77歳(喜寿)を迎えた市民			
	誰(何)を対象として	喜寿を祝福する			
	意図(どのような状態にしたいのか)	生きがいを感じてもらう			

## 2 事業の概要 Do

実施の概要		市が、9月15日現在で77歳(喜寿)を迎えた方に敬老金を支給し、祝福する。				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	喜寿(77歳)支給件数	件数	327	324	324	340
	白寿(99歳)支給件数	件数	8	0	0	0
	米寿(88歳)支給件数	件数	0	0	0	0

## 3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円				
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.100	0.100	100.0	0.100	100.0	0.100	100.0	
	臨時職員	0.000	0.000	-	0.000	-	0.000	-	
支出内訳	人件費	1,846,208	1,573,434	85.2	1,609,685	102.3	1,558,772	96.8	
	事業費	3,732,507	3,283,397	88.0	3,280,242	99.9	3,460,000	105.5	
	合計	5,578,715	4,856,831	87.1	4,889,927	100.7	5,018,772	102.6	
財源内訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他			-		-		-	
	一般財源	5,578,715	4,856,831	87.1	4,889,927	100.7	5,018,772	102.6	
合計	5,578,715	4,856,831	87.1	4,889,927	100.7	5,018,772	102.6		

## 4 評価指標

【有効性】

指標名1		実績							
指標説明(式)		77歳支給件数+99歳支給件数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
件	目標	360	330	91.7	330	100.0	340	103.0	
	実績	335	324	96.7	324	100.0			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

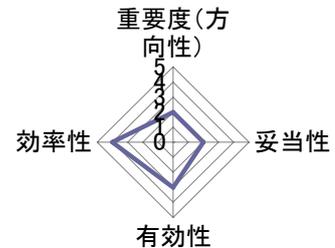
指標名1		支給1件当たりコスト							
指標説明(式)		事業費/件数(実績)							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	11,142	10,134	91.0	10,124	99.9	10,176	100.5	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	長寿の祝福が目的であったが、88歳(米寿)は県の長寿祝金とのダブりからH17に廃止し、99歳(白寿)は百歳敬老事業と近接するからH18に廃止し、現在、77歳(喜寿)のみ存続する。しかしながら、平均寿命の延伸に伴い、77歳(喜寿)を長寿として祝う意味が薄れつつある。	2	2
	市民ニーズ	支給対象者のニーズは高い。		
有効性	成果目標(改善)達成度	対象者が対象年齢の到達者に限定されているため、年度により増減が生じ、実績値等で評価することは不適當。	3	3
	市民サービス	人生の節目の歳を市民より祝福される事で、単調な毎日に生きがいを感じてもらえる。		
効率性	コストの節減	H17の88歳(米寿)の支給廃止、H18の99歳(白寿)の支給廃止により、支給コストは低減している。	4	3
	手段の最適性	敬老月間(9月)に市が直接給付(市民から祝福されている意味)することで、敬老の思いを感じてもらうことができ、適正である。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	目的の妥当性	平均寿命の延伸により、対象を77歳(喜寿)とする事の妥当性を検討する必要がある。また、H19に県の88歳(米寿)を対象とした長寿祝金が廃止される等、県下他市町の動向を鑑みながら、制度の存廃を検討する必要がある。



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
H19→H20予算反映額		

(2) 20年度の実施方針

H17に88歳(米寿)を廃止し、H18に99歳(白寿)を廃止し、H19には88歳(米壽)の県長寿祝金が廃止となる等、立て続けに廃止が相次いでいる関係上、H20年度は存続させる。
--

検討の有無	要検討
総合指標	13